

中国陝西省の女子教育学部生が持つ 卵子提供に関する知識と態度

楚 河*・秋月 百合**・鄭 迎芳***

Investigating knowledge and perceptions of egg donation among female undergraduates in China

He Chu, Yuri Akizuki, Yingfang Zheng

(Received September 30, 2020)

本研究では、中国陝西省の女子大学生が、卵子提供に関する正しい知識をどの程度をもっているのか、また、卵子提供に対してどのような意識を持っているのかを明らかにすることを目的とした。中国陝西省宝鶏市にあるA大学の教育学部3年生194名（回収率100%、有効回答率82.9%）の女子学生を対象とし、教育学部3年生が受講する授業で、研究主旨を説明した上で研究協力を依頼し、質問紙調査を実施した。質問内容は、基本的属性・特性、卵子提供に関する知識および意識等である。結果として、交際相手がいる人は約20%、性交経験がある人は約12%であった。また将来結婚を希望する人は約5割であり、挙児希望のある人は半数以下であった。卵子提供に関する知識として、とりわけ卵子提供の医学的技術、提供者への身体的影響やその他の影響、卵子提供に関する法律について質問したが、知識の正答率は質問内容によって差があった。卵子提供に関する意識について、卵子提供を経験したことがある対象者はおらず、関心のある者は1割のみであった。また、卵子提供者になる意思がある者は極僅かであり、将来子どもに恵まれなかった場合、卵子提供を受けたいと思う者は約3割であった。女子大学生が卵子提供者になることについては、半数近くが問題があると答えた一方、わからないと回答した者も47.8%存在した。約6割が卵子提供に関する授業を受ける意思を示し、約7割が卵子提供に関する学校教育の必要性を認識していた。対象者の属性・特性および卵子提供に対する意識が卵子提供に関する知識の正答数に影響を与えるかどうかを検定したが、有意差が認められた因子はなかった。これらの結果から、今後、卵子提供を考える若い女性たちが適切な判断ができるよう、卵子提供に関する啓発教育の機会を提供することが重要であろう。それらに加え、生命倫理観を醸成するための初等から高等まで継続した教育が求められる。

Key words : 卵子提供, 女子大学生, 意識, 中国, 学校教育

緒言

近年、“二人っ子政策”が実施されている中国は女性が妊娠適齢期を過ぎた夫婦が多く、高齢で二人目を望んでいるカップル、不妊治療を受けるカップルが増加している¹⁾。このような背景から、中国では生殖補助医療に関する技術が注目され、第三者が関与する卵子提供の需要が高まっている。

中国における生殖補助医療技術に関連する法

律^{2) 3) 4)}によると、胚や配偶子の売買は禁止されており、いかなる組織や個人、形式によっても卵子提供者を募集しビジネス行為を行うことは禁止されている。また、不妊治療患者による余剰胚の提供以外に配偶子を提供することは禁じられている。しかし、卵子提供を仲介する違法業者が存在し、金銭目的の若い女性が、正しい知識を持たないまま、卵子提供のドナーとなり、高い報酬をもらう現状がある⁵⁾。違法の卵子提供ビジネスは、排卵誘発剤の乱用等により、提供者の心身へのリスクが危惧される。

* 熊本大学大学院教育学研究科修士

** 熊本大学大学院生命科学研究部

*** 東北大学病院

若い女性たちが違法で安全でない卵子提供のリスクに晒されることを防ぐには、彼らが卵子提供に関する正しい知識や情報を持つことが重要である。

研究目的

本研究の目的は、中国陝西省の教育学部の女子大学生が、卵子提供に関する知識をどの程度持っているのか、また、どのような意識を持っているのかを明らかにすることである。本研究を通して、若い女性たちが卵子提供に関する正しい知識や情報を得ることができ、今後自分の身体を守り、性に関する適切な判断や行動ができる能力を育成するための教育の一助となることを期待する。

研究方法

1. 対象

中国陝西省宝鶏市にある A 大学の教育学部 3 年の女子学生を対象とした。

2. アンケート実施時期および方法

A 大学の教育学部の協力のもと、2018 年 9 月、教育学部 3 年生が受講する 4 つの教職科目の授業でアンケートを実施した。授業が始まる前に、受講生に対し研究について口頭および書面で説明をし、研究への参加を依頼した。アンケート用紙を配布し、研究の主旨に同意した学生のみアンケートへ回答してもらうように依頼した。

3. アンケート内容

アンケート内容は、基本的属性および収入（仕送り、アルバイトなど）、交際相手の有無、性交経験の有無、結婚願望や育児希望、卵子提供に関する知識および卵子提供に関する意識についてである。

4. 分析方法

対象者の属性・特性、卵子提供に関する意識について、卵子提供に関する知識の正答数に差があるか検討するために、Excel 統計 Bellcurve for Excel ver.2.11 を使用し、t 検定、一元配置分散分析を行った。有意水準は 5% とした。

5. 倫理的配慮

研究への参加は、個人の自由意思に基づき、強制ではないこと、参加へ同意した後いつでも同意を撤回できること、撤回したとしても教育上の不利益を被ることはないこと、これらのことを研究協力依頼時に口頭及び書面で説明した。また、調査質問紙は無記名とし、回答内容は統計的に処理し、研究目的以外では使用しないことを説明した。本研究対象は中国の学生であり、

民族によって、特定の宗教を信仰する人や特定の文化を持つ人がいるかもしれない。対象者の宗教や文化に配慮するために、途中で回答を止めたい場合は止めることができることを説明した。

結果

1. 対象者の属性および特性（表 1）

アンケートの配布部数は 234 部、回収部数は 234 部であり、配付部数に対する回収率は 100% であった。234 部のうち、協力に同意しない者 29 名および男性 11 名の計 40 名は本研究の対象から除外した。有効回答数は 194 部、有効回答率は 82.9% であった。

対象者は全員女性であり、年齢は 20 歳および 21 歳が最も多く 128 人（65.9%）であった。出身地は陝西省が 179 人（92.3%）であった。一ヶ月の収入（仕送りやアルバイトなど）は、1000 元以下が 89 人（45.9%）、1000～2000 元が 99 人（51.0%）であった。今の収入に余裕があると感じている人は 14 人（7.2%）であり、ちょうどいいと考えている人は 126 人（65.0%）、足りないと感じている人は 54 人（27.8%）であった。現在交際相手がいる人は 39 人（20.1%）であり、いない人は 155 人（79.9%）であった。性交経験については、経験がある人は 23 人（11.9%）、経験がない人

表 1 対象者の属性および特性 n=194(%)

年齢	18～19 歳	29(17.94%)
	20～21 歳	128(65.98%)
	22～24 歳	37(19.13%)
出身地	陝西	179(92.27%)
	他の省	15(7.73%)
一カ月の収入（仕送り、アルバイトなどによる）	1000 元以下	89(45.88%)
	1000～2000 元	99(51.03%)
	2000～3000 元	5(2.58%)
	3000 元以上	1(0.52%)
収入の充足度	余裕がある	14(7.22%)
	ちょうどいい	126(64.95%)
	足りない	54(27.84%)
現在の交際相手の有無	いる	39(20.10%)
	いない	155(79.90%)
性交経験の有無	はい	23(11.86%)
	いいえ	171(88.14%)
将来の結婚願望の有無	結婚したい	102(52.58%)
	結婚したくない	26(13.40%)
	わからない	66(34.02%)
将来の育児希望の有無	欲しい	86(44.33%)
	欲しくない	42(21.65%)
	わからない	66(34.02%)
テレビや雑誌、新聞、インターネット等で、女子大学生が卵子提供をする（卵子提供者になる）ことに関する記事を目にしたことがあるか	よくある	7(4.39%)
	ときどきある	53(26.34%)
	あまりない	103(54.15%)
	まったくない	31(15.12%)

は171人(88.1%)であった。また、将来結婚を希望する人は102人(52.6%)であり、結婚したくない人は26人(13.4%)、わからない人は66人(34.0%)であった。将来子どもが欲しい人は86人(44.3%)、欲しくない人は42人(21.7%)、わからない人は66人(34.0%)であった。

女子大学生が卵子提供することについて、テレビや雑誌、新聞、インターネット等で目にしたことがあるかという質問の回答は、「よくある」7人(4.4%)、「ときどきある」53人(26.3%)、「あまりない」103人(54.2%)、「まったくない」31人(15.1%)であった。

2. 卵子提供に関する知識(表2)

卵子提供に関する知識7項目の中で、「卵子提供する際に、複数個の卵子を採取するために、卵巣を刺激する(○)」は104人(53.6%)が、「卵子提供する際に、複数個の卵子を採取するために排卵誘発剤を使う(○)」では100人(51.6%)が正答した。「排卵誘発剤を使うことによって、様々な副作用がある(○)」は123人(64.4%)が正答した。一方、「採卵する際に、膣壁から卵巣にかけて針を穿刺し、卵子を回収する(○)」では51人(26.3%)が正答したが、134人(69.1%)がわからないと回答した。「中国では、どんな女性でも卵子提供ができる(×)」は135人(69.6%)が正答し、「中国では第三者が関与する生殖補助医療技術に関する法律がない(×)」は22人(11.3%)のみが正答し、149人(76.8%)がわからないと答えた。

排卵誘発剤の副作用のひとつとして多胎妊娠があることを知っている人は61人(31.4%)であった。合

法的には、一人の卵子提供者から採卵できる回数は3回を限度とされている⁴⁾が、このことを正答できた人は37人(19.1%)のみであった。

3. 卵子提供に関する意識(表3)

卵子提供への関心については、「とても関心がある」者はおらず、「少し関心がある」者が8人(3.9%)、「あまり関心がない」「まったく関心がない」を合わせて186人(95.6%)であった。卵子提供を社会的に認めることについては、「認めてよい」が42人(21.4%)、「条件付きで認めてよい」が66人(35.1%)であった。「認められない」と回答したのは27人(14.6%)であり、「わからない」が59人(28.8%)であった。

一般の女子大学生が卵子を提供する(卵子提供者になる)ことについて、特に問題がないと思う者は14人(7.8%)であり、問題があると思う者は84人(44.4%)、わからない者は96人(47.8%)であった。理由は表3-1の通りで、特に問題がないとする理由は、「自分の体は自分で自由に使うことができるから」「困っている人を助けるためならいいと思う」「安全が保障され、産婦人科医が行う場合ならいいと思う」「献血と一緒に思う」等が挙げられた。問題があるとする理由としては、「危険性があるから」「知識が不十分だから」「無責任な行為と思う」「学生は勉強が第一と思う」「卵子を安く売ることが問題である」等が聞かれた。

対象者の中で卵子提供を経験した者はいなかった。今後卵子提供をしたいか(卵子提供者になりたいか)について、「そう思う」者はおらず、「少し思う」者は2人(1.0%)で、「そう思わない」「まったくそう思わ

表2 卵子提供に関する知識の回答分布

		n=194(%)
卵子提供する際に、複数個の卵子を採取する(採卵)ために、卵巣を刺激する(○)	正しい	104(53.61%)
	誤り	5(2.58%)
	わからない	85(43.81%)
卵子提供する際に、複数個の卵子を採取するために排卵誘発剤を使う(○)	正しい	100(51.55%)
	誤り	20(10.31%)
	わからない	74(38.14%)
卵子提供をすることにより、自分が妊娠するときに妊娠しづらくなる(×)	正しい	67(34.54%)
	誤り	54(27.84%)
	わからない	73(37.63%)
排卵誘発剤を使うことによって、様々な副作用がある(○)	正しい	123(63.40%)
	誤り	15(7.73%)
	わからない	56(28.87%)
採卵する際に、膣壁から卵巣にかけて針を穿刺し、卵子を回収する(○)	正しい	51(26.29%)
	誤り	9(4.64%)
	わからない	134(69.07%)
中国では第三者が関与する生殖補助医療技術に関する法律がない(×)	正しい	23(11.86%)
	誤り	22(11.34%)
	わからない	149(76.80%)
中国では、どんな女性でも卵子提供ができる(×)	正しい	6(3.09%)
	誤り	135(69.59%)
	わからない	53(27.32%)

※塗りつぶしは正解を表す

表3 卵子提供に関する意識

		n=194 (%)
あなたは、卵子提供に関心がありますか	とても関心がある	8(3.90%)
	少し関心がある	8(3.90%)
	あまり関心がない	67(34.15%)
	全く関心がない	119(61.46%)
卵子提供を社会的に認めることについてどう思いますか	認めてよい	42(21.46%)
	条件付きで認めてよい	66(35.12%)
	認められない	27(14.63%)
	わからない	59(28.78%)
一般の女子大学生が卵子提供をする（卵子提供者になる）ことについてどう思いますか	特に問題がないと思う	14(7.80%)
	問題があると思う	84(44.39%)
	わからない	96(47.80%)
あなたご自身が卵子提供を経験したことがありますか	ある	0(0.00%)
	ない	194(100%)
卵子提供をしたいと思いますか	そう思う	0(0.00%)
	少しそう思う	2(1.03%)
	そう思わない	67(34.54%)
	全くそう思わない	125(64.43%)
将来、あなたと配偶者が子どもを望んでいるのに子どもに恵まれないとしたら、あなたはこの技術（卵子提供）を利用しようと思いますか	利用したい	12(6.19%)
	配偶者が賛成したら利用する	46(23.71%)
	利用しない	27(13.92%)
	わからない	109(56.19%)
あなたは、これまでに卵子提供に関する教育を受けたことがありますか	受けたことがある	4(2.06%)
	受けたことがない	182(93.81%)
	覚えていない	8(4.12%)
あなたは、一般的に、学校において卵子提供に関する教育が必要だと思いますか	大いにそう思う	13(6.70%)
	必要と思う	47(24.23%)
	どちらかという必要と思う	77(39.69%)
	どちらかかという必要と思わない	21(10.82%)
	必要と思わない	13(6.70%)
	全く必要と思わない	3(1.55%)
もし、今後卵子提供に関する教育を受ける機会があれば受けたいですか	わからない	20(10.31%)
	とても受けたい	3(1.55%)
	受けたい	48(24.74%)
	どちらかかという受けたい	64(32.99%)
	どちらかかという受けたくない	18(9.28%)
	受けたくない	10(5.15%)
	全く受けたくない	5(2.58%)
どちらでもよい	46(23.71%)	

ない」と回答した者が合わせて192人(99.0%)であった。そう思わない理由は表3-2の通りで、「安全性が保障されておらず問題が生じるかもしれないから」「お金に困っていないから」等が挙げられた。

将来自分と配偶者が子どもに恵まれなかった場合、卵子提供技術を利用するかについては、「利用したい」者は12人(6.2%)、「配偶者が賛成したら利用したい」者は46人(23.7%)であり、「利用しない」を選択した者は27人(13.9%)であった。一方「わからない」と回答した者が109人(56.2%)と半数以上を占めた。「利用しない」理由としては、「養子縁組等の子どもを持つ他の手段があるから」「自分や配偶者の健康に害がある可能性があるから」「生まれてく子どもの健康に害がある可能性があるから」「卵子提供者の健康に害が生じる可能性があるから」「妊娠はあくまで自然

に行われるべきだと思うから」「母親と血が繋がっていないから」などが挙げられた(表3-3)。

一方、教育に関しては、過去に卵子提供に関する教育を受けたことがある者は4人(2.1%)で、ほとんどが受けたことがなかった。学校において卵子提供に関する教育が必要かどうかについては、「大いに必要と思う」「必要と思う」「どちらかという必要と思う」が合わせて137人(76.2%)と多かった。137人に望ましい教育の時期を尋ねたところ、大学が98人(71.5%)、高校29人(21.2%)、中学校10人(7.3%)であった。今後卵子提供に関する教育を受ける機会があれば受けたいかどうかについては、「とても受けたい」「受けたい」「どちらかという受けたい」を合わせて115人(59.3%)、どちらでもよいと回答した者が46人(23.7%)であった。

表 3-1 女子大学生が卵子提供を行うことに関する自由記述

特に問題がないと思う理由	n=13(%)
自分の体は自分で自由に使うことができるから	6(46.15%)
困っている人を助けるため、いいと思う	4(30.77%)
安全が保障された場合、産婦人科医の場合、いいと思う	2(15.38%)
献血と一緒に思う	1(7.69%)
問題があると思う理由	n=70(%)
1. 一般の女子大学生が卵子提供をすることは危険性がある	35(50.00%)
違法提供の場合、女子大学生の健康が保障されない、健康に害がある可能性があるから	30(42.86%)
仲介業者から女子大学生の個人情報漏れる場合、今後の生活に悪い影響があるかもしれないから	4(5.71%)
違法の場合、提供した卵子の処理方法が不明だから	1(1.43%)
女子大学生たちが社会人ではなく、社会経験が浅くて、簡単に違法業者の話信じて、被害者になる	2(2.86%)
2. 一般の女子大学生が卵子提供をすることの原因は知識が不十分だから	13(18.57%)
女子大学生が卵子提供に関する知識が不十分、軽く考えるから	5(7.14%)
学校の教育が不十分、大学生の判断力が低い	3(4.29%)
卵子を提供すれば、(提供した)女子たちの老化を早める	1(1.43%)
卵子提供をすることにより、自分が妊娠するときに妊娠しづらくなる	1(1.43%)
3. 一般の女子大学生が卵子提供をすることは無責任な行為と思う	12(17.14%)
女子大学生が金銭のために卵子を提供することは、自分の体のことを考えていない無責任な行為	8(8.57%)
今後の家族の関係が悪くなる	3(4.29%)
生まれた子どもの生命を尊重していないから	2(2.86%)
誤った価値観を持っているから	1(1.43%)
4. 女子大学生はまだ学生だから、勉強することが一番大事	5(7.14%)
5. 法律の不備がある	3(4.29%)
6. 卵子を安く売ることが問題	3(4.29%)

表 3-2 卵子を提供したいかどうかの自由記述

そう思わない理由	n=94(%)
お金を持ってるから、卵子を提供する必要がない	21(22.34%)
体の健康に害がある可能性があるから	4(4.26%)
卵子提供の事を聞いたことがないから	5(5.32%)
副作用があるかもしれないから	4(4.26%)
周りの人がやらないから	2(2.13%)
家族から心配されるから	2(2.13%)
今後の生活に不良な影響があるかもしれないから	3(3.19%)
手術が怖い	2(2.13%)
興味がない	15(15.96%)
母親と血がつながっていない、妊娠はあくまで自然になされるべきだから	2(2.13%)
卵子を受ける方が知らない人だから、不安	1(1.06%)
提供することにより、自分が妊娠するときに妊娠しづらくなる	2(2.13%)
安全性が保障されておらず問題が起こるかもしれないから	25(26.60%)
産婦人科ではない場合、信じられないから	2(2.13%)
自分の卵子、他の人に渡したくない	1(1.06%)
卵子を安く売ることが問題	1(1.06%)
恥ずかしい	1(1.06%)

表 3-3 将来、卵子提供技術を利用しないとする理由

	n=27(%)
自分自身、または配偶者の健康に害がある可能性があるから	13(48.15%)
生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから	12(44.44%)
卵子提供者の健康に害がある可能性があるから	11(40.74%)
(生物学的に)母親と血がつながっていないから	5(18.52%)
妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから	11(40.74%)
卵子提供で生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるから	4(14.81%)
養子縁組等の子どもをもつ他の手段があるから	15(55.56%)
時間的、金銭的に負担が大きいから	1(3.70%)
その他	2(7.41%)
わからない	3(11.11%)

4. 属性・特性による卵子提供に関する知識の正答数の違い

収入、交際相手の有無、性交経験の有無、挙児希望の有無について、卵子提供の知識7項目の正答数の違いをt検定により検討したが、いずれの変数においても知識の正答数に有意な差は認められなかった。また、卵子提供に関する意識の5項目（卵子提供を社会的に認めるか、女子大学生が卵子提供をすることへの態度、将来卵子提供技術を利用したいか、卵子提供に関する教育の必要性の認識、卵子提供の教育を受けたいか）についても、一元配置分散分析により知識の正答数の違いを検討したが、有意差が認められた変数はなかった。

考察

本研究では、中国の女子大学生の卵子提供に関する知識と意識について明らかにした。以下に考察を述べる。

本研究対象者のうち結婚願望および挙児希望がある人は約5割であり、わからないと回答した者が3割を超えた。潘星容⁶⁾が中国の大学生を対象とした研究では、結婚願望を持つ割合は約6割であり、張争光ら⁷⁾の研究では挙児希望のある学生は約7割であった。一方、楠木ら⁸⁾が行った日本の教育学部生を対象とした結果では、結婚願望および挙児希望のある者はいずれも9割近くであり、今回の研究結果よりもかなり高い結果であった。結婚願望および挙児希望について「わからない」を選択した割合を見てみると、今回の研究ではいずれも3割強が該当したのに対し、張争光ら⁷⁾の研究では挙児希望について15%がわからないと回答した。一方、楠木らの研究⁸⁾ではいずれもわずか2%前後であった。これらのことから、一概には言えないが、中国と日本の大学生を比べると、中国の大学生の方が結婚願望および挙児希望が低く、かつ迷っている者が多い可能性が示唆された。

今回の研究では、中国の女子大学生の卵子提供に関する知識として7項目を尋ねた。本研究は、若い女性が非合法的に卵子提供を行い金銭を得ること、身体的な合併症が生じることを問題視しているため、とりわけ卵子提供の医学的技術、提供者への身体的影響やその他の影響、卵子提供に関する法律について質問した。本結果から、卵子提供をする際複数個の卵子を採取(採卵)するために卵巣を刺激すること、刺激の方法として排卵誘発剤を使うことについては5割以上が正答しており、排卵誘発剤には様々な副作用があることについては6割以上が正答していた。これらのことから、本対象者の半数は、卵子提供を行うためには卵巣を薬

剤により刺激しなければならず、複数の副作用が生じる可能性があることを理解できていることが示唆された。しかし、排卵誘発剤の副作用や合併症として、多胎妊娠が増加するリスクを知っていた者は約3割しかおらず、具体的な副作用や合併症については詳しくは知らないことが示唆された。また、採卵の際膈壁から卵巣にかけて針を穿刺し卵子を回収することについては26%のみが正答しており、約7割がわからないと回答していた。このことから、卵巣を刺激し排卵させた卵子をどのように回収するのか、具体的手法について理解している者だけでなく、イメージできる者も少ないことが示唆された。

卵子提供を行うことの影響として、提供者が妊娠したい時に妊娠しづらくなるという設問を作成したが、このような卵子提供後の合併症について科学的根拠は見当たらないため、正解を×とした。しかし本対象者の約35%が卵子提供者はその後妊娠しづらくなると認識しており、わからない者も約38%いた。今後新たな合併症が発生しないとは限らないため、卵子提供者の提供後の健康状態を長期的に追跡することが不可欠である。

中国では、人類補助生殖技術規範³⁾、人類補助生殖技術と人類精子バンク倫理原則⁴⁾、人類補助生殖技術管理弁法²⁾があり、卵子提供も含め生殖補助医療技術の実施について定めている。中国には第三者が関与する生殖補助医療技術に関する法律がないと認識している者が約12%、法律があるか否かわからない者が約77%を占めた。こうした法律は特殊で専門性が高い分野のものであるため、教育学部の学生には馴染みが薄く、正答率が低いのもやむを得ないと考える。しかし李明霞⁹⁾が新疆ウイグル自治区の医学生を対象とした生殖医療に関する理解度を調査した研究では、代理出産が合法である、独身、未婚女性もART(生殖補助医療技術)を利用できる、胚移植の過程で性別を選択できる等誤った理解をしている者が半数を超えていた。一方、日本の看護学生を対象とした研究でも、第三者が関与する生殖補助医療技術について十分な知識を持たない者が過半数を占めていた¹⁰⁾。これらのことから、将来医療従事者になる学生すら正しく知識を持つことは困難な課題であるといえ、意図的に学ぶ機会が与えられなければ、知識を持つことは難しいと考えられる。

本研究の対象者には、卵子提供を経験したことがある者はおらず、関心のある者は1割のみで、自分自身が卵子提供者になる意思がある者は極僅かであった。日本の一般大学生および医学部生を対象とした研究¹¹⁾では、自分の配偶子提供を求められた場合どうするかについて、医学部生の方が一般学生より有意に提供意

思が高かった。しかし当該研究ではわからないと回答した者が4割を超えていた。本研究で、将来自分と配偶者が子どもに恵まれなかった場合、卵子提供を利用しないと回答した者は約15%であり、利用するかどうかわからない者が約6割を占めた。一般国民を対象とした我が国の研究では「わからない」を選択肢に入っていない調査が多いため、本結果との比較は困難であるが、卵子提供を「利用しない」を選択した者の割合は、2003年の山縣¹²⁾らの研究では約6割、2014年のYamamotoらの研究¹³⁾では約7割であった。本研究対象者は中国の大学生であり、将来の挙児希望を持つ者も半数を切っていたことから、彼らにとっては現実的に考えることが難しい医療技術なのではないか。

女子大学生が卵子提供をすることについては、合法的に行われるのであれば、困っている人を助けるという福祉的な意味で肯定できるとする考え、安全性が保障されるならば良いとする考えが散見された。一方、非合法的に卵子提供することは、提供する女子大学生の健康上のリスクだけでなく、個人情報漏洩の問題、十分な知識がないまま提供することのリスクに加え、金銭目的の提供は無責任な行為であるとの考えなどから問題があるとの意見が多かった。このように、女子大学生が行う卵子提供は、合法的に行われる場合とそうでない場合の観点から考えられていたようだ。

卵子提供を社会的に認めてよいかどうかについては、認めてよいと考える者が半数を超えていた。このことから、本研究対象の女子大学生は、自分自身のこととして考えた場合には判断が難しいが、社会一般的に考えた場合は寛容な考えを持っている可能性が考えられた。学校において卵子提供に関する教育が必要と思う者は多かったことから、社会全体の課題として捉える必要があると考えているのではないだろうか。

今後、若い女性による金銭目的の非合法的で安全でない卵子提供を防ぐには、卵子提供の心身への影響のみならず、生じうる社会的、倫理的、法的問題についても理解してもらえようような教育を行う必要がある。また、自分の身体を守っていくために、性に関する事柄を含め直面した課題に対して適切な判断ができる能力だけでなく、生命倫理観を育成することが重要と考えられる。そのためには、初等教育からの継続した性や生に関する授業が重要であり、特に、本研究対象者のような将来教諭を志す教育学部生に指導する機会を作ることで、より効果が期待できる。

結論

本研究は、中国陝西省の女子教育学部生を対象に、

卵子提供に関する知識と意識について明らかにした。その結果、本対象者の持つ卵子提供の知識の正答率は内容によって差があった。女性大学生が卵子提供を行うことについての意識は、合法的か否かによって賛否の理由が異なった。また、半数以上が卵子提供を社会的に認めてよいとの考えを持っており、卵子提供に関する教育の必要性については7割以上が必要と考えていた。

今後、卵子提供を考える若い女性たちが適切な判断ができるよう、卵子提供に関する啓発教育の機会を提供することが重要であろう。それらに加え、生命倫理観を醸成するための初等から高等まで継続された教育が求められる。

謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に感謝申し上げます。また、快く調査にご協力いただきました授業担当教員に心より御礼申し上げます。

本研究は、熊本大学大学院教育学研究科修士論文の一部である。

引用文献

- 1) 『人民日報』2017年2月3日健康時空19面「生不出二孩真烦恼」(筆・王君平)
- 2) 中国衛生部(2001). 人類補助生殖技術管理弁法. Available at: http://www.gov.cn/gongbao/content/2002/content_61906.htm (accessed on 20th September 2020)
- 3) 中国衛生部(2003). 人類補助生殖技術規範. Available at: <http://www.nhc.gov.cn/qjjys/s3581/200805/f69a925d55b44be2a9b4ada7fcdec835.shtml> (accessed on 20th September 2020)
- 4) 中国衛生部(2003). 人類補助生殖技術と人類精子バンク倫理原則. Available at: <http://www.nhc.gov.cn/qjjys/s3581/200805/f69a925d55b44be2a9b4ada7fcdec835.shtml> (accessed on 20th September 2020)
- 5) 『北京青年報』2019年5月13日第A08版看天下「卵子非法买卖学历颜值高价格就高, 医生: 存生命危险」(筆・北青暗访组)
- 6) 潘星容(2013). 关于当代大学生婚恋观調查報告. 宁夏社会科学, 1(176), 148-153.
- 7) 張争光(2015). 西北地区高校大学生生育意愿調查分析. 教育教学論壇, 28, 83-84.
- 8) 楠木祥子, 秋月百合, 前田恵理(2019). 妊孕性・不妊に関する知識を高める教育プログラムの開発.

- 熊本大学教育学部紀要. 68.173-179.
- 9) 李明霞, 赵俊岭, 翟世和 (2010). 新疆医科大学医学生对人类辅助生殖技术的认知调查. 中国初級衛生保健, 24 (5), 30-31.
 - 10) 大橋一友, 西村明子, 中嶋有加里, 他 (2003). 講義による情報提供が看護大学生の生殖補助医療技術に対する意識に及ぼす影響. 母性衛生, 44 (4), 466-471.
 - 11) 根本紀子, 佐藤啓造, 藤代雅也, 他 (2016). 生殖補助医療法制化に向けての法医学的一考察. 昭和学会誌, 76 (5), 615-623.
 - 12) 山縣然太郎, 星和彦, 平田修司, 他 (2003). 生殖補助医療技術についての意識調査 2003 集計結果. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究.
Available at:
<https://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/db/tokubetu02/index.html>, 2003 (accessed on 15th September 2020)
 - 13) Yamamoto N, Hirata T, Izumi G, et al. (2018). A survey of public attitudes towards third-party reproduction in Japan in 2014. PLoS ONE, 13(10): e0198499.
Available at:
<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0198499> (accessed on 15th September 2020)